

長戸路政司先生のお話

みなさんは本校で 数カ年の高等学校の教育を受けられまして、この卒業間際になりました。

今後みなさんは、みなさんの人生は非常に大切なところです。本当に人間になるかならないか、事業が成功するかしないかということは、この卒業後の数カ年で決まります。

たとえば、会社・銀行、その他の立派な産業界に入るものもあるでしょう。あるいは上の学校に入るものもあるでしょう。あるいは家庭その他においていろいろ経験することもあるでしょう。それに共通する思想について申し上げます。

いかなるところの職業に参りましても、いかなる場面に臨みましても、みなさんはみなさんのベストを尽くしなさい。

しかし、女性に特有の一つの心配なことがあります。みなさんは、あるいは数年後に結婚することがあるでしょう。あるいは何年か後にめでたくお子さんもできましょう。こういう場合に女性というものが陥りやすいと思うのは、この結婚までのいく数年間の間に自分はこのときだけ就職をする、あるいはお子さんのできるまでの間就職をしようと言う考えをもつのもやむを得ない。そういう考えのもとに、まあしばらく時間稼ぎに、あまり荒を出さないでいい加減にその場を濁してやろうとい気持ちに陥ることもなきにしもあらずです。

これは普通の女性にありがちであります。我が敬愛卒業生においては断じてそういう考えをもってはいけません。もし勤務をする時間が短ければ短いほど、なお精を出す、ベストを尽くす、そういうふうにお約束ください。

もう一つは、わたしはせんだって（先日）ある中学校へ参りましたところ、中学校の校長先生が、毎朝、学校に自分は通勤します。その際に方々の学校の生徒をじっと眺めるんだそうです。その時に敬愛の生徒は、本当に真から隣におるおばあさんおじいさんに対して席を譲って、真心を込めて親切にねぎらった、ということを申されまして。他にはそういうものをできないものもあります。これを聞いて私は非常に嬉しかった。こういう人の悪口を言う人もいますが、老人に親切にするという、これは今、敬愛の建学の精神の敬天愛人なのです。

私はこういう点において、みなさんが素晴らしい人生を送られるように希望します。